



## 理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

## 基本方針

- 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- 二次医療を中心に担当します。
- 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

あけましておめでとうございます

## 新年のご挨拶

病院長 大石 正博

### 昨年を振り返って

新年を迎え、謹んで初春のお祝い申し上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

旧年中を振り返るとやはり新型コロナの話題に尽きるようです。当院でも130人余りの入院患者を受け入れ、重症者も経験しました。また、夏に起こった第5波のピーク時には鳥取市内で大きなクラスターが発生し当院も満床となり待機患者が発生しました。幸い、10月には第5波も沈静しましたが、年末年始の人流の増加や感染力の強いオミクロン株のために新年早々に第6波が予想され、まだ気を緩めることができません。100年前のスペイン風邪では、第2波、第3波とすすむにつれて致死率が高くなり、人口の30%の人が感染し、日本では45万人(人口の0.8%)が犠牲になり、2年で終息しました。

ただ、2022年は悪いことばかりではないようです。鳥取県では75%以上の方が2回のワクチン接種を済ませ、医療関係者には3回目の接種も進んでいます。また、内服薬の開発も進み、2種類の内服薬が日本でも認可される予定です。今回のパンデミックでは、いままでにないスピードでワクチンや治療薬が開発され、期せずして急速な医学の進歩を目的

にすることができました。人類の英知がパンデミックに打ち勝つ日も近いと確信しています。

当院の一番明るい話題は手術支援ロボット・ダヴィンチの導入です。まずは前立腺、腎などの泌尿器科領域で始めていきます。現在の腹腔鏡手術も低侵襲で体に負担の少ない手術ですが、ロボット手術はそれに加えてより繊細で緻密な手技が可能になります。当院には、前任地で多数のロボット手術を経験している医師もおり、満を持してのダヴィンチの導入です。

### 本年もよろしく願いいたします

旧年中は面会制限で患者さんやその家族には大変ご迷惑をお掛けいたしました。病院は単に病気を治す場所ではなく、病人と援助者(医療従事者、家族、友人)が出会う場所であり、お互いを思いやり気遣うことで互いに人間的成長を得る場所だと思えます。今年のお盆のころには新型コロナも終息し、遠くから久しぶりに帰省されたお見舞いの人たちが集うことのできる温かく開けた病院になっていることを祈念いたします。



## 手術支援ロボット

# ダヴィンチを導入しました

当院では、従来の方法では難しかった繊細な手術の実現と、手術時の患者身体の負担軽減を目的に、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を新たに導入しました。

ダヴィンチを用いた手術は、ロボット手術指導医の資格を持った執刀医が、操縦席（サージョンコンソール）から遠隔操作で手術支援ロボットのアームについている専用カメラや鉗子を操作して行います。ダヴィンチによって、小さな傷口で、より精密な手術が短時間で可能となり、患者さんの身体の負担を大きく軽減することが可能となります。



まずは泌尿器科領域で2月より前立腺がん、その後、腎臓がん、骨盤臓器脱の手術にダヴィンチを用いる予定です。この機器を巧み活用し、より安心・安全な医療が提供できるよう邁進してまいります。

## 手術支援ロボットダヴィンチ導入イベント

# 高校生医療体験会を行いました

手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入したことに際し、令和3年12月26日に高校生医療体験会を行いました。将来医療職を志す高校生を対象に行ったイベントで、当日は事前に申し込みいただいた高校生16名にご参加いただきました。

ダヴィンチの操作体験をはじめ、腹腔鏡手術に使用するアームや内視鏡スコープを用いた体験なども行いました。

参加者からは、「ダヴィンチ操作は貴重な体験だった。」「普段触ることのない器具や機械を体験できて、とても楽しかった。」「医療機器を実際に使う体験ができ、わくわくが止まらなかった。」などの感想をいただき、担当者も「イベントをやってよかった」と胸をなでおろしていました。

この体験が将来の進路の参考となりましたら幸いです。





## クリティカルケア 特定認定看護師 の資格も取得しました

2階東病棟 副看護師長 松本 祐一



令和3年12月にクリティカルケア特定認定看護師の資格を取得しました。クリティカルケアという聞きなれない言葉ですが、生命の危機にあるような重症患者さんに対して行われるケアのことです。前制度では「救急看護」と「集中ケア」という別々の分野でしたが、新制度では1つになって「クリティカルケア」となりました。院内の外来・病棟など部署を問わず、患者さんに介入をして、重症悪化予防、早期回復、合併症予防などに携われるような知識や技術を学んできました。

今はまだ自分に何ができるのか考え中なところではありますが、ベッドサイドから患者さんに接しながら、今まで以上に患者さんの細やかな変化をとらえて重症化を防いだり、学んできた知識や技術をみんなで共有していけたらいいなと思っています。

今は2階東病棟勤務ですが、クリティカルケアを必要としている患者さんは救急や在宅など部署を問わずいらっしゃるので、今回習得した知識と技術を活かして活動できたらと思います。

## 手指衛生川柳コンテストを行いました

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、職場でも自宅でも重要な手指衛生をいつも適切に行いたいものです。

そこで、当院の職員を対象に手指衛生の大切さについて今一度考えてほしいという想いから、手指衛生川柳コンテストを行いました。募集したところ45もの作品が集まり、その中で優れた作品について表彰を行いました。

作品につきましては、当院中央放射線部受付前の廊下に1月中をめぐりに展示していますので、ご来院の際にどうぞご覧ください。

あなたの手  
人に触れても  
大丈夫？

ありがとう  
いつもの笑顔と  
きれいな手

優秀賞

触れる前

思い出してね

手指衛生

最優秀賞